

芝浦と場 — 職員からの一言 その①

人間は、植物や動物の命をもらわなければ、自分自身の命を維持することはできない。他の命を奪うことが残酷だといったら、人間は生命を維持することができず、生物として存在ができない。

殺して命をもらっている。

殺さなければ命はもらえない。

そして、私達の命が生き、存在する。

このようにして人間は生きているにもかかわらず、と場で牛や豚を殺すことを悪いことと捉え、と場の仕事を忌まわしいもの、ケガれたものと考えているとしたら、それはまちがった考えです。

しかし、現在でも私達を差別する人がいます。

「動物を殺す残酷な仕事」、そんな仕事ができるのは「ケガれた人間、だから自分達とは違う人間」という差別意識や考え方があります。魚や植物でも命を奪うということでは同じはずなのに、動物だと残酷なことになるのはなぜなのでしょう。これが、自分で意識していなくても、歴史の中で慣習として受け継がれ、未だに根深く残っている部落差別であり、と場差別なのです。

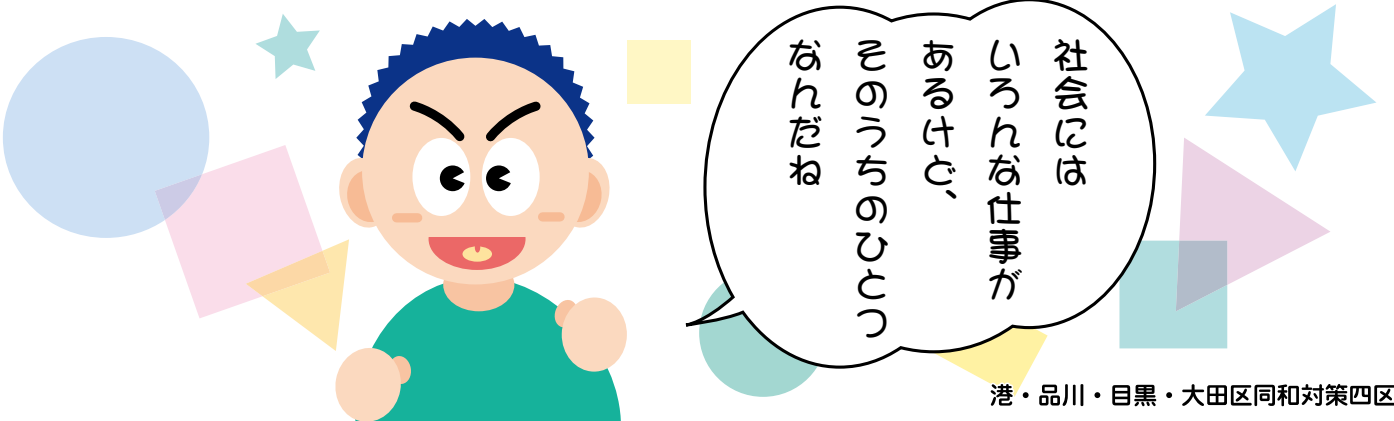
肉を食べるため、革製品を使うために動物を殺すことは、悪いことでも、忌まわしいことでも、ケガれたことでも、絶対にありません。人間の歴史の中で綿々と受け継がれてきたことです。

私達はこう思っています。

動物を殺すことは、「人間が生きていくためには仕方のないこと」なのではなく、「あたりまえのこと」なのだ。だから、と場の仕事は特別ほめたたえられることでもないし、だからといって、決してさげすまれることでもない、社会に色々ある仕事のひとつにしかすぎないと思うのです。

私達に対する差別や偏見は絶対に許すことはできません。なぜなら、人間が人間を差別するということは、あってはならないことだからです。

一度、と場にある「お肉の情報館」へ見学に来て下さい。と場に関する正しい知識と理解を深めることができますと思います。



社会には
いろんな仕事
があるけど、
そのうちのひとつ
なんだね